

2018年度 後期授業評価アンケート 顕彰科目担当教員コメント

教員名	鈴木康子
顕彰科目名	日本史学演習 AIII
<p>●授業運営において工夫されている点</p> <p>授業では、ゼミ生が各自の興味のあるテーマを選び、そのテーマについて、独自に調査し、レジュメを作成して発表する。そして、発表した後に、良かった点と不十分な点について指摘し、必要とあらば、再発表を行う形で授業は進められる。再発表の際、少しでも前回の発表からテーマが深められている場合は、積極的にその点を認めるようにしている。</p> <p>一回の発表で内容が十分と考えられる学生と、さらに再発表が必要となる学生も、ともに、その後は、さらに高いゴールに到達するための方法を、各学生とともに話し合うようにしている。</p> <p>こうした作業の中で、テーマの明確性と、問題の所在の指摘、努力に対する正当な評価、さらに今後の指針をはっきりさせていく。こうしたことを重ねるうちに、各ゼミ生がそれぞれ次第に自分で考え、自分で調べることがスムーズにできるようになっていく。これが社会へ出てからも必要不可欠なスキルになって、どのような仕事にも生かされると考えている。</p> <p>以上のような内容では授業はずっと緊張感を伴ってしまうので、発表の途中で、あるいは、発表が終わった後に、ゼミ生たちと研究に関連したことや、全然違う話題について雑談形式で話し合うようにしている。その中から、現在の各ゼミ生が抱えている生活や人生の悩みを解決するヒントが見つかる場合もあるかもしれない。それに日本史の研究は、過去の人間の歴史一般に関することを明らかにすることであるため、やはり、人間をさまざまな角度から客観的に鑑察し、興味を持つことが大切だと考えている。</p> <p>●今後取り組んでいこうと考えておられることなど</p> <p>今のところ、特に考えていない。その年、その年により、ゼミ生の興味や性格や、全体から醸し出す雰囲気もさまざまなので、それに柔軟に対応することが大切なことと思っている。</p>	